Management Club Report

Jan.2024/Vol.253

Monthly Opinion　≪極めたい“強さ”と“美しさ”≫

世界ではウクライナに加えてパレスチナでの紛争まで先が見えない中での新年を迎えましたが、国内では元旦の能登半島地震と２日の羽田空港での飛行機衝突事故と大変悲惨な年明けとなりました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

能登半島地震は2000年に一度という地盤隆起が引き起こした M7.6の大地震だったそうで、愕然としました。港には船が入れず、幹線道路が幾重にも行き交う都会とは異なる郡部での交通通信手段の遮断は、いまだ大勢の被災者が取り残されていると言います。都市インフラの一日も早い復旧を願うばかりです。

羽田空港の衝突事故は、機械化され統制された現代の空港管制システム下で起きることはまず無いと思われていた事故だけに寒気を感じてしまいました。その一方、炎が機内に入り込む直前に乗客全員を無事退去に導いた客室乗務員の職業意識。冷静な判断力と精神力、そして勇気には頭が下がりましたし、最後に機内を見回り、動けずに残っていた乗客を救出した後に退出したという機長の責任感あふれる行動にも感動を覚えました。事故原因は調査中ですので軽々に論ずることはできませんが、機械は万能ではない、人間の観察力や注意力の重要性、判断力や精神力が大きな力を発揮することを改めて学んだ気が致します。能登に救援物資を届ける使命を担いつつ犠牲となられた海保隊員５勇士の無念を思う時、心が張り裂けそうになります。唯々ご冥福を祈るばかりです。

1　人手不足社会の現状と未来とその背景

めぐり合わせに驚きつつ身を引き締める

昨年１月の MC レポートの書き出しは次の文章から始まっていました。

新しい 2023 年を迎えました。関東大震災が起きた 1923 年（大正 12 年）から丁度 100 年に当たります。地震国である我が国は、その後にもたびたび起きた大地震から多くのことを学び、被害を最小限に抑えるための対策を様々に講じてきました。今後も起こるであろう地震に対しては、国が講じるべき対策もあるでしょうが、私たち自身、それぞれの立場持ち場で冷静な対応がとれるように日頃より心がけなければと思います。

何というめぐり合わせでしょうか。１年後に大きな地震に見舞われるとは、可能性はあるにしても、同じ年明けの１月号にそのことについて書くことになろ